

## 旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会の開催及び基盤整備に向けた取組状況について（報告）

### 1 国際園芸博覧会

#### (1) 広報PR・機運醸成

##### ア 一般社団法人2027年国際園芸博覧会協会における取組

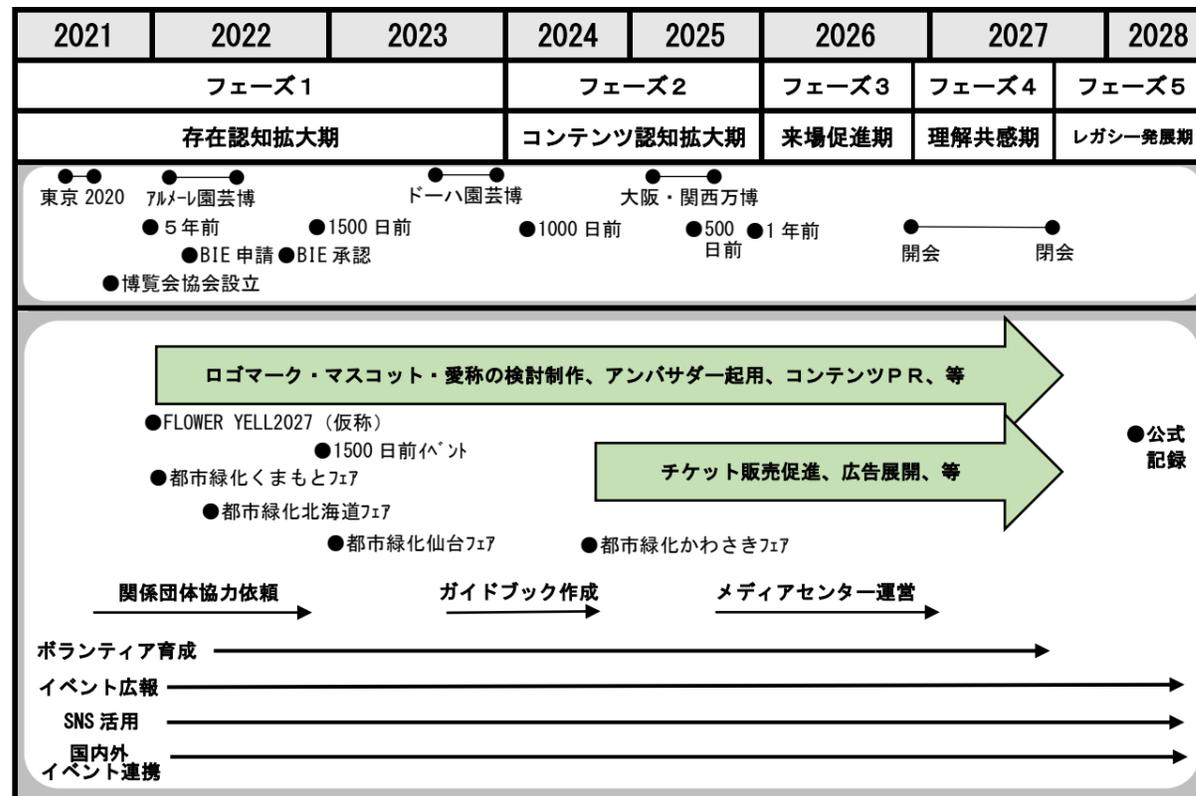
園芸博の主催者となる博覧会協会において、園芸博の認知度及び来訪意向を高め、園芸博の理念を継承させるため、準備から閉会后まで5つのフェーズ（時期）、3つのターゲット（対象者）を設定し、施策を展開していきます。

#### (ア) フェーズ毎の施策のイメージ

2023年度までを、園芸博の開催を周知する「存在認知拡大期」、2024及び2025年度を、園芸博のコンテンツを発信し、期待感を醸成する「コンテンツ認知拡大期」、2026年度を、実際の来場につなげる「来場促進期」、開催期間中を、園芸博の魅力を発信し、新規及びリピート来場を図る「理解共感期」、開催後を「レガシー発展期」として、フェーズ毎に効果的な取組を行い、機運醸成を加速させ、園芸博への来場につなげるとともに、閉会后も園芸博のレガシーを広く継承できるよう取り組んでいきます。

【参考1】各フェーズと施策のイメージ

(年度)



#### (イ) ターゲットのイメージ

ターゲットを来場者、出展者、支援者に分類し、一方通行の広報だけではなく、意見交換などコミュニケーションをとりながら参加意欲向上等につながる機運醸成を図っていきます。

【参考2】ターゲットのイメージ

具体例	
来場者	市民、外国人、学校（教育機関）、スポンサー関係者、招待者等
出展者	参加国、国際機関、政府各省庁、自治体、園芸・造園・農業関係者、民間企業、研究機関、産業団体、市民団体等
支援者	市民団体、民間企業、スポンサー、園芸・造園・農業関係者、マスメディア、ボランティア等

#### (ウ) フェーズ1における取組例

##### a 開催5年前イベント

開催5年前にあたる今年3月から2027年横浜開催を周知するイベントを実施します。

##### (a) アルメーレ国際園芸博覧会（ターゲット：出展者）

今年4月からオランダのアルメーレ（4月14日～10月9日）において、園芸博が開催されます。日本国出展会場において、2027年横浜開催のPRを行います。

##### (b) 全国都市緑化フェア（ターゲット：来場者・出展者）

第38回の熊本県（3月19日～5月22日）、第39回の北海道（6月25日～7月24日）で開催される全国都市緑化フェアにおいて、一般社団法人横浜市造園協会と連携し、園芸博PR花壇を出展します。

##### (c) FLOWER YELL2027（仮称）（ターゲット：来場者）

開幕5年前が想定される今年3月に2027年横浜開催を周知するイベントを実施します。クイーンズスクエア（西区みなとみらい）のイベントスペースに巨大な花束オブジェを数日間展示し、花の配布に合わせて来場者に園芸博開催をPRします。イベント初日にはステージイベントを開催して周知効果を高めます。

##### b 開催1500日前イベント（ターゲット：来場者）

令和5年1月には開催1500日前を迎えるため、イベントを伴った広範な広報活動を実施し、全国的な認知度の向上を図ります。

c 公式ロゴマーク（ターゲット：来場者・出展者・支援者）

令和4年度から園芸博の公式ロゴマークの制作に取り組みます。公式ロゴマークについては、園芸博のコンセプトを体現するシンボルとしてあらゆる場面で活用していくことはもとより、そのデザインの公募や選考、決定といった制作プロセスをイベント化することにより、継続的で効果的なプロモーション活動を実施します。

(I) 認知度、来訪意向度の指標設定

今後、博覧会協会において基本計画案を策定する中で、認知度、来訪意向度の指標を設定し、開催までの定期測定を行っていきます。令和3年度に実施した認知度調査では、園芸博の認知度は横浜市内で24.5%、横浜市外で13.1%となっており、認知度の向上に向けて取り組んでいきます。

【参考3】認知度調査

<概要> 調査手法：オンラインによるアンケート調査（令和3年度）  
対象者：【性別】男女 / 【年齢】20～79歳 / 全国  
回収件数：4200件  
<結果> 認知度：横浜市内24.5%、横浜市外13.1%

イ 横浜市における取組

本市としては、博覧会協会が行う広報事業と相乗効果を得られるよう、関係区局や地域・関係団体等と連携しながら、市内の機運醸成や、認知度の向上につながる取組を進めます。

(7) 博覧会協会との連携

アルメーレ園芸博、熊本県や北海道の都市緑化フェアにおける共同出展の他、市内におけるイベントやシンポジウムにおいて連携して取り組んでいきます。

(イ) 地域との連携

ガーデンネックレス横浜や、音祭り等の横浜芸術アクション事業の他、旭区・瀬谷区など区の実施ととも、ボランティア団体等の市民活動と連携していきます。

また、小・中学生などの若い世代に向けたわかりやすい周知活動や、市民や企業、各種団体等とも連携した取組を進めながら、花と緑の活動のすそ野を広げ、幅広い世代への発信と共感を生む活動を展開していきます。

【参考4】地域での取組



<たねダンゴづくりのワークショップ>



<公園愛護会と保育園児による花壇づくり>



<小学校での手形アート>



<瀬谷西高校でのSDGs教育との連携>

(ウ) 関係団体との連携

旭区及び瀬谷区の推進協議会や、旧上瀬谷通信施設まちづくり協議会等において、引き続き、情報共有や意見交換を行うとともに、市内経済団体や横浜市緑の協会、横浜市造園協会などの関係団体とも連携を図りながら、市内の機運醸成につなげます。

【参考5】最近の取組例

①新横浜駅のモニターの放映



②2027 国際園芸博覧会ニュース4号



③東名高速道路の横断幕の掲出



(2) 輸送アクセスの検討

国際園芸博覧会の輸送アクセス計画については、博覧会協会が中心となり、国や自治体、交通事業者や関係団体の協力のもと、バス・自家用車輸送やパーク&ライド導入など具体の対策について検討していきます。

検討にあたっては、国、関係自治体、交通管理者、事業者等と協議、調整を行い、安全かつ円滑な輸送体系を取りまとめることを目的とした輸送対策の協議会の設置に向けて準備を進めます。

また、周辺の鉄道駅からのシャトルバス運行については、今後、周辺駅の発着場設置可能性の調査や速達性・定時性確保のための調査・検討を進めます。

(3) 園芸博の特措法案

博覧会協会の指定、国の補助、国有財産の無償使用等の特別の措置を講ずるため、「令和九年に開催される国際園芸博覧会の準備及び運営のために必要な特別措置に関する法律案」が、第208回通常国会に提出されました。

## 2 土地区画整理事業

1月から地権者約250名への個別面談を実施し、検討状況の説明や土地利用の意向確認を行っています。個別面談の意向も踏まえ、事業計画案の検討を進めるとともに、令和4年度早期の事業計画決定を目指し、引き続き環境影響評価や都市計画の手続を進めます。

### 【参考6】令和3年度の主な取組

時期	内容
令和3年2月～6月	地権者個別面談（検討状況説明、意向確認）
令和3年6月～8月	土地区画整理事業区域の都市計画決定にかかる都市計画案・環境影響評価準備書の縦覧
令和3年7月	環境影響評価準備書説明会の開催（計3回）
令和4年1月～	地権者個別面談（検討状況説明、意向確認）

## 3 新たな交通の検討・周辺道路整備

### （1）新たな交通の検討

土地区画整理や土地利用の検討の深度化の状況にあわせ、新たな交通について、具体的な内容の検討や事業性の検討を行います。

### （2）周辺道路整備

八王子街道の拡幅については、測量や設計を進めるとともに、事業用地の確保に向けて調査を進め、用地取得や物件補償を行います。

瀬谷地内線の整備については、事業用地の確保に向けて調査を進め、用地取得や物件補償を行います。

あわせて、測量や相模鉄道本線との交差点での道路構造の確定等のための設計を進めます。

